



## 先生の通信簿

(※現在一般的には「通信票」と呼ばれますが、ここでは通称として定着している「通信簿」を使用します。)

以前全国の小学校で、学級における担任と児童との交流や相互の信頼関係づくりなどの目的で、児童が教師に対しての評価を行う「先生の通信簿」という活動が散見された時期がありました。(現在も学級経営の創意工夫の一つとして、自分なりにアレンジしながら取り組んでいる教師がいるかも知れません。)私も担任の頃、学級でこの活動を取り入れていました。

私は、当時の児童用の通信簿とすっかり同じ様式を作り、表紙には評価する側に児童名、評価される側に担任名を児童用とは逆に記入し、中身の評価項目についても同様に、同じ項目の見方を逆にして表現していました。学期末に児童に通信簿を渡す際に、それを児童から私へも渡すという形で、「通信簿交換」を行っていました。

評価項目の一例を挙げると、児童用の通信簿に「漢字を正しく書けたか」という項目があれば、それを「漢字を正しく書くための指導法を工夫したか」という表現に変えて、児童と同じように「できた・ふつう・もうすこし」という3段階で担任への評価を行わせていました。

子供たちとの通信簿交換の際には、「みんなはいいよね。私一人分を書けばいいんだもん。私は40人分書かなきゃないんだよ・・・。」などと話しながら交換していたことを思い出します。その活動に取り組んでいた数年間は、児童用のものとそっくり印刷したり、文言を工夫したりなど、少し特別なことをやっているような感覚を持っていましたが、前述の通り、児童用の物とそっくり、凝って丁寧に作れば作るほど、その内容としての教師への評価は、児童への評価の裏返しになるものです。今思えば、「先生の通信簿」は、児童の通信簿と表裏一体のものでした。

今日で1学期が終わり、各担任を中心として作成した通信簿(「学校と家庭との連絡」)を渡しました。私は子供たちと通信簿の交換をしていましたが、そんなことをしなくても、子供たち一人一人に手渡す通信簿は、全て「先生の通信簿」でもあるのです。子供に「意欲が持てたか」と問う時、「意欲を持たせるような指導ができたか」と、「学習を理解できたか」と問う時、「理解できるように指導したか」と、教師は自分自身に常に問いかけなければなりません。子供たちに対して厳しい評価となることもあります。郡山小学校の教職員は皆、それを子供たちのせいにはしていません。自分の教師としての指導を振り返りながら、その子供の力をどうすれば伸ばすことができるのかを真剣に考えています。日々の授業の様子や職員室での会話などから、私はそのことを、ひしひしと感じています。

郡山小学校の教職員は、これからも、謙虚さを持って子供たちと共に学び、ご家庭との連携を図りながら、個々の学力向上や生活改善のために努力して参ります。

..... 切り取り線 .....

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年10月7日 ( )年 ( )組 児童氏名

※匿名でも結構ですが、御連絡が必要な場合等を考え、記名していただけるとありがたいです。

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp (校長直通)